

幕末期に幕府大老として国政を担った井伊直弼（1815-1860）と、明治維新の立役者の一人であった西郷隆盛（1827-1877）。同時代に生きたこの2人の歴史的人物が直接に相対したことはありませんでしたが、直弼が大老であった井伊政権時代に、2人の描く軌跡が接近し、互いに影響しあいながら大きく交差しました。今回の展示では、当館所蔵の彦根藩井伊家文書（重要文化財）から西郷隆盛関連の資料を取り上げ、井伊直弼と西郷隆盛の関係を具体的に紹介します。

安政5年(1858)4月に井伊直弼は幕府大老に就任し、同年6月には井伊政権のもと、日米修好通商条約が調印されました。直弼と政治対立し、条約調印に抗議した一橋派の前水戸藩主徳川斉昭らに謹慎などの処罰が行われました。同年8月に孝明天皇から井伊政権の条約調印を強く非難する勅諭が水戸藩と幕府に下されました（戊午の密勅）。この事態を幕府の政治秩序の根本を覆すものと受け止めた井伊政権は、勅諭に関わったと嫌疑をかけた人物を捜索・捕縛し、死罪を含む処罰を行いました。いわゆる安政の大獄です。

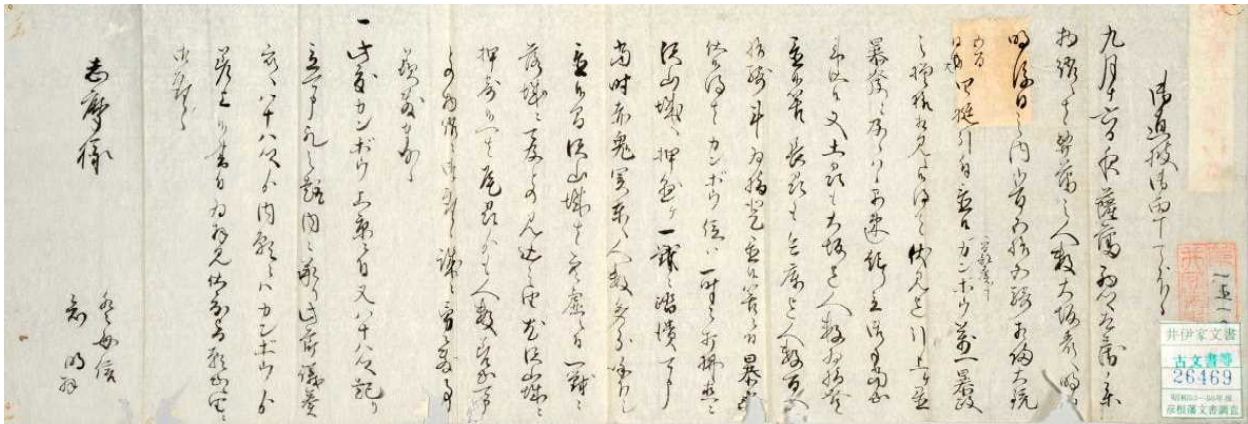
西郷隆盛は、同時期、薩摩藩主島津斉彬の命を受け、京都で公家の近衛家を通じて、將軍継嗣に一橋慶喜を擁立するための政治工作を行っていました。西郷の挙動は、井伊政権の京都探索により把握され、政権に反する人物として危険視されていました。この後、西郷は井伊政権の追及を逃れるために薩摩に退去しましたが、国元でも窮地に追い込まれた末に、自殺未遂から流島生活へと到る苦難の時を迎えることとなりました。

彦根藩井伊家文書には、井伊政権の京都探索における取り調べ記録が多数伝わっており、西郷に関する情報が含まれています。そこには、京都で井伊政権による「暴政」があった時には、西郷が大坂から薩摩藩兵を率い出兵し、その後「沢山城（彦根城）」を攻撃するという挙兵計画を西郷自身が語ったとする文書や、薩摩国に退去した西郷が海中にて入水自殺をはかり死亡したとする薩摩藩からの報告書（薩摩藩による虚偽報告であり、実は自殺未遂であった）などがあります。これらの情報は、京都にいた長野義言らから江戸にあった直弼にもたらされました。これらの探索関連文書を通じて、西郷の存在が直弼に認識されていたと考えられます。

「井伊直弼と西郷隆盛」展示史料

| No. | 指定 | 名称 | 年代 | 所蔵 | 内容 |
|-----|----|--|-----------------|--------------|--|
| 1 | 重文 | ちよくじょううつし ぼご みつちよく 勅諭写 (戊午の密勅) | 安政5年(1858)8月8日 | 当館(彦根藩井伊家文書) | 幕府の日米修好通商条約調印を批判した孝明天皇の勅諭。 |
| 2 | 重文 | ながのよしときしよあん うつぎ かげよし 長野義言書状案 宇津木景福 あて宛 | 安政5年(1858)9月20日 | 当館(彦根藩井伊家文書) | 水戸藩留守居役の鶴飼父子から押収した書状と、「沢山城」を踏み倒し落城させるとの西郷の発言を記した別紙を送ることを述べた手紙。 |
| 3 | 重文 | うがい とも のぶ とも あき れんしよしよじょううつし 鶴飼知信・知明 連署書状写 あじま たてわきあて 安島帯刀宛 | 安政5年(1858)9月 | 当館(彦根藩井伊家文書) | 西郷吉兵衛（隆盛）が薩摩藩兵を率い上京し、さらに「沢山城」を踏み倒し落城させると語っていた内容を報せた手紙。 |
| 4 | 重文 | ながのよしときしよあん かろう ちゆう あて 長野義言書状案 家老中 宛 | 安政5年(1858)9月21日 | 当館(彦根藩井伊家文書) | 水戸藩留守居役の鶴飼父子を召し捕らえ、騒動を阻止したことを報告した手紙。 |
| 5 | 重文 | うがい とも のぶ とも あきぎんみ しよ あん 鶴飼知信・知明吟味書案 | 安政5年(1858)9月30日 | 当館(彦根藩井伊家文書) | 薩摩藩西郷らの動きに刺激され、徳川斉昭の謹慎処分取り消し運動を行った等、鶴飼父子への取り調べ結果をまとめたもの。 |
| 6 | 重文 | きつまつ はんくわう いじゆういん たろう えもん 薩摩藩家老伊集院太郎右衛門 とどけがき 届書 | 安政6年(1859)4月9日 | 当館(彦根藩井伊家文書) | 清水寺成就院隠居が薩摩にて薩摩藩家臣西郷と船より入水した顛末を報告したもの。 |

主な展示史料



うがいともぶ ともあきれんしよしよじょうつし あじまたてわきあて
 鵜飼知信・知明連署書状 写 安島帯刀宛 1通 (作品リストNO. 3)

縦13.8cm 横39.5cm

安政5年(1858)9月

当館蔵(重要文化財 彦根藩井伊家文書)

西郷吉兵衛(隆盛)が語った挙兵計画を、水戸藩留守居役の鵜飼知信とその倅知明が同藩家老安島帯刀に報じた手紙。

薩摩藩の軍勢255騎と大銃4挺を大坂で準備し、井伊政権の幕府老中間部詮勝が京都で「暴政」を行うようであれば伏見に軍勢を移動させ、「暴政」に及べば間部を打ち払い、すぐに「沢山城」(彦根城)に押しかけ一戦で踏み倒す、今は「赤鬼」(井伊直弼)は関東へ藩兵の多くを呼び寄せているので、沢山城は空虚であり、一戦で落城に及ぶ見込みであると、西郷が自らの挙兵計画を語ったとする。この手紙は、井伊政権の京都探索により鵜飼父子が捕らえられたことにより、露頭したものの。西郷は井伊政権の転覆を企てている人物として認識され、危険視されていたことがわかる。